

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873400853		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKI ほおずき姫路香寺		
所在地	兵庫県姫路市香寺町中仁野268番1		
自己評価作成日	平成24年10月15日	評価結果市町村受理日	平成25年2月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物内外の色々な所に花を置いて、皆で世話をしている。</li> <li>・入居者、家族、職員が互いに支えあう事をテーマに掲げ、チーム力やチームワークの向上に力を入れている。</li> <li>・入居者が、退屈と思われぬように努めている。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2丁目2番14号703号
訪問調査日	平成24年10月25日

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>①地域交流・・自治会へ加入し、近隣散歩時にゴミ拾いや「通信(ホーム便り)」を配布し、また、介護相談会を開催し、地域の中での存在(役割)の啓蒙活動に取り組んでいる。また、季節の食材を近隣の方が持ってきて下さり、食事の一葉に並ぶこともしばしばある。②生活を豊かに・・入居者にとって、与えられる生活ではなく自身が主体となって過ごせるよう、望む「役割(食事、洗濯、フロア清掃係り等)」を担い、充実した日常となるよう図っている。散歩や買い物家族と過ごしたり、思いを表出することが難しい方へは個別に時間を共有し、汲み取った意見等を生活に反映する介護計画の作成に努めている。③職員の資質向上・・社会人として並びに介護職員として必要な基礎能力は、法人本部主導で養成し、実践面での能力向上は、ホーム内でのOJT,OFFJTを通じてアップするよう取り組んでいる。また、介護職務一般の課題といわれるバーンアウト(メンタルヘルス不全)にも留意し、ストレスマネジメントに取り組んでいる。</p>
---

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼時に唱和している。</li> <li>・会議の場では、各課題の要点については、理念にも照らして考えている。</li> </ul>	事業所テーマ「出会いを大切にし 互いを思いやり 支えあう 笑顔あふれるホームづくり」を全職員が日々の運営のなかで実践するよう取組んでいる。会議等の場面で相互の行動を振り返りそれに磨きをかけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所で買い物をしたり、率先した挨拶をすることを心がけている。</li> <li>・近隣の方より、畑で収穫された野菜や、季節の花を頂いている。</li> <li>・地域行事の誘いを受けるようになった。</li> </ul>	自治会にも加入し、地域・近隣の方々との日常的な情報交換を意識し活動している。ホーム主催行事・地域行事への相互交流も徐々に深まってきている。	地域の社会資源として、今後も、地域密着型サービス理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議において、現場でどのような事があつたか報告、説明している。また、意見交換の際にアドバイスを受けてたり、提案している。</li> </ul>		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議の意見交換会の中で、具体的な事例を取り上げ、そこで出た意見を現場で活用している。</li> </ul>	会議では、地域の中でのホームの役割作りに重点を置き、相互意見交換が活発になされている。また、多くの家族出席を意図し、常に全家族に出席案内を送付すると共に、欠席者からは意見を頂くよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホーム連絡会に参加し、市役所の方から情報を得たり、意見を述べる場を得ている。</li> </ul>	年3回のグループホーム連絡会(市職員参加)に出席し、種々の情報交換や意見・要望を具申し、改善が図られた事案もあり、地域包括支援センター含め、行政との連携は蜜になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関は夜間タイマー式の自動施錠システムに変わったが、日中通常は開錠している。</li> <li>・危険がない限り、入居者の行きたいところへ行ってもらう、といった原則を意識して実行している。</li> <li>・言葉による拘束の重大性等あらゆる事を意識するようにし、徹底して禁止している</li> </ul>	身体的拘束等の弊害に関する基本的知識は、本部主導の研修等により修得し、ホームでは実践レベルでの課題を日々の業務のなかで相互確認を含め排除するよう取組んでいる(特に、スピーチロック)。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間行事計画に挙げて、虐待防止の勉強会を行うようにしている。</li> <li>・入居者の表情や様子の観察を日頃から行い、入浴時に体の状態を見たり等、心身の状態変化に注意している。</li> </ul>	「頭(知識)」ではなく、「ヒト(全身全霊)」として虐待防止が図れるよう、職員のメンタルヘルスに留意し、公私を問わず管理者、リーダーは職員とのコミュニケーションを図っている(交換日記等)。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会に参加し、勉強している。</li> <li>入居後に、成年後見制度を利用されている方がおられる。</li> </ul>	本部主導での基礎研修や現在2名が活用されているため、職員は権利擁護に対する意識を高く持っている。地域包括支援センターの協力を仰ぎ、権利擁護に関する種々の事例等の入手も検討している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族宅に訪問して、じっくりと話しを伺っている。</li> <li>書類の説明も念入りに行き、不安・疑問についても理解頂ける様に、時間をかけ説明している。</li> </ul>	契約締結前に、本人(家族含む)とホームが相互に疑問点等不安要素を無いようにし、契約後は「家族」として共に暮らしていけるよう図っている。また、重度化・終末期への取組み方針も理解いただいている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議に、入居者も家族も自由に発言できる機会を設けている。</li> <li>そこでの発言を改善に生かしている。</li> <li>事業所に「ご意見箱」を設置している。</li> <li>ホームページから苦情・要望の受付ができる。</li> </ul>	運営推進会議で、近隣の側溝の安全性の問題を検討し改善を図った。また、行事参加時や訪問時にも直接聴き取りを行っている。「意見箱」「ホームページでの要望受付」等多くのチャネルを有し、いただいた意見には法人全体で即時対応する風土が醸成されている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体ミーティング、フロアミーティングなどのミーティングにも管理者が同席し、意見を交わし、実施に向けて取り組んでいる。</li> </ul>	ホーム内会議において意見等を発信する機会を用意し、権限の範囲内で即時解決を図るよう取り組んでいる。また、本部職員とも面談する機会も有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイチャレンジ(個人目標)を個人と代表者の間で共有している。</li> <li>整備された人事考課のシステムに基づいて、判断処遇されている。</li> <li>福利厚生として、甲子園の年間シートに招待されたり、事業所毎の慰労会が催される。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回全体研修が行われている。</li> <li>新人研修等、職位ごとの研修が年間に複数回行われ、参加している。</li> <li>個別、目的別の研修会に月1回ほどのペースで参加している。</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループホーム連絡会に参加し交流している。</li> <li>他施設に実習に出たり、受け入れをしている。</li> <li>法人内他事業所との事例検討会に参加している。</li> </ul>		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前から本人の思いを聞き、関わるようにしている。 ・導入段階では、本人の気持ちや要望をじっくり伺い、信頼関係を築けるようにしている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居申し込み時から、家族としての思いや要望等を面談等にて伺い、関係づくりをしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族からの伺える限りの情報に基づき、公平・公正に、必要な社会資源に繋がられるよう努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・楽しみも目標も、本人と職員と一緒に味わい、取り組むようにしている。 ・日常生活の各場面で本人と職員は相互に助け合っている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人も家族も職員も同じ目標を持つ、チームの一員としての働きかけをしている。 ・面会時に家族に、衣替えの準備や一緒に出かける事などを依頼する事もある。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前に通われていた書道教室に、入居後も継続して、送迎等の支援を行い、通い続けてもらっている。 ・近所の店や医院に行かれての会話等を大切にしている。 ・友人に来てもらいやすい雰囲気づくりに努めている。	入居前よりの書道教室のメンバーと交流をはかり、年末の集まりには参加し楽しんでいる。近くのドラッグストアや医院での知人・友人との会話も楽しみとなっている。また、散歩中に出会った友人には、ホーム訪問を呼びかけ、和やかな時間を共有している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・楽しみごと家事等も複数あるいはユニットの全員の入居者で行えるようにしている。 ・関係の把握に努め、時に盛り上げ、時にクッションになり、時に退いて入居者が自主的に円滑に支えあえるようにしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅に戻られた方には、年賀状や暑中見舞いを送っている。</li> <li>・入院で退居された方にはお見舞いに伺ったりしている。</li> <li>・退居時に現場の声をお伝えしている。</li> </ul>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各入居者の好まれる事や得意な事、必要な事や好まれるペース等を、日ごろから伺ったり、把握できるようにしている。</li> </ul>	入居者の普段の言動や食事時の会話等を通じ、ご本人の望まれる、大切な事柄をキャッチし、それらを申し送り等により周知あい、日々のケア、介護計画の変更等に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者全員のフェイスシートやアセスメントシートにどの職員も目を通すようにし、かつ日常会話から伺っている。</li> </ul>		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人のその日の状態に応じた、望まれる生活ができるように努めている。</li> <li>・行事や日常の家事でも、時々いつもと違うことしてもらっている。</li> </ul>		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の意向のうち最大のものが前面に出る計画となるように努めている。</li> <li>・ミーティングやカンファレンスにより、意見、アイデアを集めている。</li> </ul>	アセスメントに注力し、ご本人の思いを最優先に家族の要望も踏まえ、カンファレンス等で望まれる計画を検討し作成している(ご本人が望まれる「役割」担当、家族との外出、思い表出の難しい方への個別対応等)。	更に、家族からのよりダイレクトな要望等を聴き取ることが出来るような様式等の作成もされては如何でしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな発見や、トピックスも記録に残すようにしている。</li> <li>・計画への反映を考慮している。</li> </ul>		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅や家族宅への外泊希望等があれば薬や必要物品の準備等の支援をしている。</li> <li>・入院が必要な場合は各支援を行っている</li> </ul>		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>書店、スーパー、移動パン屋、訪問美容等に、希望時に行き、選択や支払いもしてもらっている。</li> <li>ボランティア来所による演芸鑑賞等を行っている。</li> </ul>		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週、協力医の往診がある。</li> <li>協力医とはいつでも連絡がとれる。</li> <li>家族が希望している病院にも受診している。</li> <li>転院の希望があれば応じている。</li> </ul>	協力医による往診(週1回)並びに24hオンライン体制での医療連携を図っている。また、疾病の状況に応じて元々のかかりつけ医への受診支援も継続している。歯科の訪問も受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力医に直接電話し、報告相談して指示受け等している。</li> </ul>		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院時は、協力医の紹介状や介護情報の提供を行っている。また、早期退院に向けての話し合いや情報交換を行っている。</li> <li>職員が見舞いに行った際に本人の安心と関係者の連携を図り、早期あるいは適時に退院できるようにしている。</li> </ul>	入院中の不安感を軽減するため、多くの職員が頻度を上げて面会に行っている。管理者は、早期退院を意図し、病院の関係者と話し合いや情報交換等連絡を密にしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>重度化や終末期に向けて家族、協力医と話し合いの場を設けている。</li> <li>遠隔地の家族には電話・手紙で状態の把握と情報の共有を行っている。</li> <li>支援体制の説明と方針の共有を行っている。</li> </ul>	ご本人の状況に応じ、医師の情報により家族等と連携を図りながら、ご本人にとって望ましいケア等を決定し(ホームでできる事、難しい事を踏まえ)、支援している。	遠隔地の家族等との情報共有について、テレビ電話等のインターネットを活用した手法等も検討されては如何でしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練やミーティングにより、急変・事故発生時の対応に備えている。</li> <li>応急対応のマニュアルを掲示している。</li> </ul>		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼想定と夜想定避難訓練を行っている。</li> <li>運営推進会議において訓練や設備の状況を紹介している。</li> </ul>	定期的な避難訓練(日中帯、夜間帯想定)を実施しており、その様子は運営推進会議において報告し意見をいただいている。また、地域住民の協力も仰ぎ、訓練にも参加いただいている。	今後も地域ぐるみの災害対策についての協働に期待をします。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉かけ、態度、表情、行動において尊厳を守ることに常時注意している。</li> <li>ミーティングの場でも最重要として確認しあっている。</li> </ul>	弱者援助のスタンスではなく、人生の大先輩である事実に重点を置き、人格・誇りの尊重を最優先のテーマとして取り組んでいる。また、帳票類の記録・開示についての個人情報保護についても留意している。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>会話の中で希望される事、好まれる事を伺ったり、様子を伺ったりしている。</li> <li>言葉による意思表示が明確でない方には、表情等に注意している。拒否には、すぐに応じる。</li> </ul>		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>その方の普段のペースやその時の状態を尊重して声掛けをしている。</li> <li>可能な限り、行きたい時に行きたい所に行けて、見守れるようにしている。</li> </ul>		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問美容ではパーマ、毛染め、カット等選んでもらっている。</li> <li>家族と行きつけの美容院に行かれる方もある。</li> <li>お風呂上りに乳液やクリームを使って頂いて、肌荒れしないようにしている。</li> </ul>		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>趣味や役割のように、調理に関わられたり、片づけをされるかたもあり、幅広く入居者と職員が一緒に行っている。</li> </ul>	入居者とホーム職員が互いに支えあい、楽しい食事時間となるよう協働している。イベント食や外食も楽しみとなっており、敷地内でのバーベキューには、家族や医師も参加し大いに盛り上がった。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>料理本等を活用し、栄養バランスに留意している。</li> <li>糖尿病の方への食事提供について医師の指示を受け一日の摂取カロリーを適切に提供できるようにしている。</li> <li>水分を細やかに提供している。</li> <li>体格や運動量や状態に応じて提供量を調整している。(支障のない範囲)</li> </ul>		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>食後に口腔ケアの声掛けを行っている。</li> <li>舌の状態を観察し、汚れていたら磨いて頂く。</li> <li>毎日口腔体操を行っている。</li> </ul>		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、トイレでの排泄を保てる様にしている。</li> <li>夜間はポータブルトイレを置き、失敗を減らすようにしている。</li> </ul>	職員がおむつ体験を実施し、トイレでの排泄の重要性を改めて確認しあった。全部屋にポータブルトイレを配置し、夜間帯での対応に備えている。おむつ全否定ではなく、外出時の支援としては準備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食に乳製品を提供し、食物繊維の多く含まれる食材を使った献立を取り入れ、歩行や体操など体を動かすようにしている。</li> </ul>		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>曜日を決めず、どの曜日でも入浴可能としている。お風呂が楽しみに思ってもらえるように会話や環境づくりをしている。</li> </ul>	全入居者が週2～3回入浴できるようにし(曜日、時間帯は決めていない)、入浴時に職員とゆっくり会話をしながら過ごせるよう配慮している。外湯(温泉ツアー)も実施し、楽しい時間を共有できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中の過ごし方を一人ひとりの状況や思いで過ごしていただけるように、掘りごたつや落ち着ける場所にいつでも休めるように椅子やソファを置いている。</li> <li>掛物等いつでも使えるようにしている。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>誤薬がないように、2重チェックを行い、薬剤情報での副作用、用量、用法の確認を必ずしている。服薬支援と状態に変化はないか確認に努めている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの趣味や楽しみごと(生け花、演芸鑑賞、書道など)ができ日常生活の中で、掃除、調理、洗濯など役割が持てるように支援している。</li> </ul>		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望に応じて、庭等の戸外や近くの店と一緒にやっている。</li> <li>家族との昼食外出の際のフォローを行っている。</li> </ul>	日常的には、散歩を兼ねた近隣への買い物やホーム近場での外気浴を楽しまれ、季節ごとに、花見、鯉のぼり見学、ムーミン祭り(香呂小学校での催し)、観芸会など家族の協力の下、取り組んでいる。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金を所持されている方は、限定されているが、買い物外出や移動パン屋での支払いは、預かり金より支払って頂くようにしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・遠隔地にいる家族に、電話をされ近況報告をされている。 ・手紙が届いた際には、読んで頂き、希望時には読み上げを行う。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を取り入れた飾りをし、玄関には花を飾り落ち着いた雰囲気が保たれ居心地よく過ごせるようにしている。玄関やフロア内の花は利用者が生け花教室で生けた花を飾っている。	共用空間には、季節感を採り入れた飾り付けや生け花(入居者による)を配置している。ホーム敷地のフェンスの花飾りは家族の要望を採り入れたものである。また、居心地のよい共用空間作りのためキャプション評価法による改善策にも積極的に取り組んでいる。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・玄関やリビングにソファを置き、エントランスには景色を見ながら、語らえるようにベンチを置き、いつでも誰とでも思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時の説明で使い慣れたものを持参頂くようにお願いをしている。居室が一人ひとりの住みなれた我が家になり、居心地良く暮らせるようにしている。	居室は、ご本人の衛生面、ADLの維持を踏まえ洗面台とポータブルトイレを配置している。家族とも相談し、使い慣れた物品の持ち込みも含めご本人の望む居室づくりを意図した支援を行っている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ところどころにいつでも休めたり、靴の脱ぎ履きができる様に椅子やベンチを置き、できるだけ自立した生活が送れるようにしている。 ・屋内でも個人用のシルバーカーを使ってもらっている。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容